
ONE PIECE 輪廻を廻った者

きー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ONE PIECE 輪廻を廻った者

【コード】

N0015BA

【作者名】

きー

【あらすじ】

2011年年末

ある町に1人の少年が居た。

さかき たつき
榊 竜稀

彼は、何故か自分のモノではない記憶をいくつも持っていた。ある時は、平安時代の役人としての記憶、またある時は、戦国時代の大名としての記憶を夢として見る事があるのだ。しかもまるで自分が体験した事のように感じるのだ。しかしその記憶のどれもが20代前半までの記憶で途切れてしまうのだ。竜稀は、そんな事を気にしな

がら平凡な生活を送るのだった。
しかし、そんなある日竜稀の生活が一変する。

世界を変える者

第1話 死から生へ

2011年年末

ある町に1人の少年が居た。

さかき たつき
榊 竜稀

彼は、何故か自分のモノではない記憶をいくつも持っていた。ある時は、平安時代の役人としての記憶、またある時は、戦国時代の大名としての記憶を夢として見る事があるのだ。しかもまるで自分が体験した事のように感じるのだ。しかしその記憶のどれもが20代前半までの記憶で途切れてしまうのだ。竜稀は、そんな事を気にしなから平凡な生活を送るのだった。

2011年ももうすぐ終わろうとしているある日

？「うううううう寒っ、めちゃくちゃ雪積もってんじゃん！！こりやさつさとONE PIECEの新刊買って帰るか。毎週ジャンプでも読んでるけどやっぱコミックスは、楽しみだな。魚人島篇も終盤だからなあ。いた楽しみだ。」

このONE PIECEファンがこの物語の主人公 さかき 榊 たつき 竜稀 である。

竜稀「よし、新刊買ったし、他に用事もないし帰るか。帰ったらさつそく読まなきゃな。つかここの信号相変わらず待ち時間なげえ」

Bannon

竜稀雪でスリップした車に轢かれてしまった。

竜稀「んん・・・ここどこだ？確かあの時・・・ん？！・・・はあ？！おいおい俺まさか轢かれたのか？まだ新刊読んでねえんだぞ。てか死因が雪でスリップした車に轢かれるってどんだけだよ。つつかここどこだよ？」

？「やっと起きたか。」

いきなり声が聞こえ、竜稀が振り返るとそこには真っ白な服を着た男が竜稀を見ていた。

竜稀「つつつつ？！びつつつつくりしたああああああ。てかあんな誰だ？いきなり後ろから話しかけんなよ！！つかいつたいどこだよ。俺は、生きてんのか？」

？「一から説明してやるからそう急いで話すな。まず俺は、俗に言う神だ。そしてお前は、死んでいる。」

神と名乗る男の話に納得できない竜稀は、さらに言葉をかける

竜稀「死んだならここは、どこだよ？マジ意味わかんねえ。つか神ってあんた頭大丈夫か？」

神「お前の存在消してやろうか？？その話は、おいといてまずしっかり俺の話の聞け！！いいか、お前は、確かに死んだ。ここは、生と死とは、切り離された狭間の世界だ。普通の者は、ここに来る事は、出来ない。」

竜稀「……………狭間の世界」

神の説明に何か考え込む竜稀そして考えをまとめ神に質問をする。

竜稀「……………何で死んだのにここにいるんだ？」

神「お前にも心当たりは、あるはずだ。……………お前、妙に臨場感のある記憶を見たことがあるだろ。」

神の言葉を聴き少しの間考える竜稀

竜稀「……………?!まさか、あの夢のことか？」

神「そうだ。お前が臨場感を感じたは、あの記憶は、実際にお前の魂が体験した記憶だ。」

神の言葉に驚く竜稀

竜稀「俺の……………記憶？」

神「ああ。正確には、お前の魂に刻まれた記憶だ。本当は、人間が記憶を持ったまま転生する事は、出来ないはずなんだがお前の魂は、妙な術が掛かっててな生まれ20代前半まで生きると強制的に寿命が終わる様になっていた。さらに死んだらまた記憶を持ったまま転生するようになっていた。そして今日何回目かわからぬ命が終わったのだ。」

神の言葉を聴き啞然とする竜稀

神「すまないと思っている。俺がもっと早くに気づいて対処するべ

きだった。本当にすまない。」

竜稀に対し深々と頭を下げ謝罪する神

竜稀「・・・まあ、俺は、寿命だったって事だろ。死んでどーこー言っただってどうにもなんないでしょ。」

神「許して・・・くれるのか？」

竜稀「今更考えてもどうにもなんないでしょ。てか死んだのになんでここにいんだ？」

神「さつきも説明したとおりお前の魂には、術がかけられていたと言っただよな。」

神の言葉に首をかしげながらうなずく竜稀

神「術は、解いたが犠牲になったお前には、新しい世界でやり直して欲しいと思っただよな。」

竜稀は、神の言葉に目をキラキラさせながら神に質問を投げかける

竜稀「新しい世界ってまさか俗に言うトリップってやつか？」

いきなりテンションの上だった竜稀に戸惑う神

神「ま、まあそうなるな。」

竜稀「じゃあ俺が世界指定して良いんだよな。」

神「そういう事だな。もちろんその世界で生きていく為に必要な力は、与えるつもりだ。」

神の言葉を聴いてさらにテンションが上がる竜稀

竜稀「じゃあ行く世界は、もちろんONE PIECEな！！んで能力は、まず悪魔の実な！実は、俺のオリジナルで動物系 神仏種 カミカミの実 モデル ポセイドン な！実の能力は、？海の神だからすべての水を操れる。？カナズチにならない。？水中を人魚と同等の速度で移動できる・息も出来る？飛行可能。次に六式。次に鷹の目のミホークと互角に戦える剣術の才能。次にフェアリーテイルの？雷竜？冥竜？氷竜の滅竜魔法。次にNARUTOの写輪眼・万華鏡写輪眼・輪廻眼・白眼をノーリスクで使用可能！！まあこれだけかな」

竜稀の矢継ぎ早な注文とその注文の多さに言葉の出ない神

神「わ、わかったがそんなに必要か？」

竜稀「あつたりまえだろ！！無きゃあの世界で生きていけねえよ！！」

ものすごい剣幕でまくし立てる竜稀

神「わ、わかった。では、向こうの世界でがんばれよ！！」

竜稀「ああ、なんかありがとな。」

神「では、行ってこい。」

そつ言つて神が指を鳴らすとそこに竜稀は、すでにいなかった。

つ
く

誕生

竜稀「んんん．．．ここどこだ？暗くて何にも見えねえ。つつかめちやくちや狭いな！マジでどこだよ」

神との話を終え意識を失った竜稀は、気が着くと狭く暗い場所にいて身動きのとれない状態だった。

しかし、竜稀が意識を取り戻して数分後それまでの状況が一変する。

竜稀「ありゃ出口か？」

竜稀「オギヤーオギヤー」ま、眩しい。」

？「奥様元気な男の子ですよ！！」

母「ハアハア．．．ハア、チリス抱かせて頂戴。」

チ「はい！奥様。」

竜稀「フグ、オギヤー、ンギヤー」元気な男の子？まさか俺生まれ変わったのか？てか眠たくなってきたあ．．．」

そう、竜稀は、ONE PIECEの世界のある家の息子として生まれ変わったのだ。

？「あらあら寝てしまったのね。」

？「フィルリアー！！生まれたのか??」

フ「あなた！！ええ、元気な男の子ですよ。あなたも抱いてあげてください。」

？「ああ、私がお前の父、ギルスだ。お前の名は、タツキ。タツキ
「グレイルだ。」

こうして榊 竜稀は、タツキ「グレイルとして転生した。

フ「タツキ、良い名ですね。」

ギ「ああ、この子には、グレイル家を継いでもらわねばならぬから
な。」

タツキは、東の海にあるとある王国の貴族の長男として生まれたのだ。

時は流れて・・・

（4年後）

俺が神 竜稀からタツキィグレイルになって4年が過ぎた。はじめの頃は、もう恥ずかしくて死にそうだった。なんたって20歳目前の奴がオムツ穿かされて恥ずかしくない訳が無い！！だから歩ける様になつてからは、自分で行くようにしてる。まあ1歳そこそこの幼児が1人でトイレに行くなんて言うから父様も母様も心配して説得するのが大変だったのを覚えている。

それから神に頼んだ能力もちゃんと使えた。ただ悪魔の実だけは、1歳の誕生日に父様が珍しい果物らしいといつてプレゼントしてくれた。父様は、ただの果物だと思っていたらしい、だから俺が能力を使った時の驚いた顔は、今も覚えてる。

体の年齢は、4歳・精神年齢は、20代。某探偵漫画みたいになつてんだよなあ。まあこの4年で神に頼んだ能力のコントロールは、完璧だと思う。でも唯一剣術まだ出来てないんだよなあ。実は俺の生まれたグレイル家は、世界貴族の次の階級にいる貴族らしい。だから戦う力なんていらなく刀が欲しいって言ったら父様にめちゃくちゃ怒られた。何回も頼み込んでやっと5歳の誕生日のプレゼントって事で了承してくれた。もちろん能力のコントロールも人に見られないように練習したりとにかく大変な4年だった。

そんな俺も明日で満5歳！！そう明日ついに自分の刀がもらえるのだ。

タツキが4年間を振り返っていると

コンコン

タツキ「はい」

メイド「タツキ様おはようございます。起きていらしたのですね。」

タツキ「明日誕生日だから眠りが浅かったのかな。」

メイドの言葉に答えるタツキ

メイド「お食事の用意が来ております。旦那様も奥様も既に席についておられますよ。」

タツキ「準備したらすぐ行くよ。」

タツキがそう言うとメイドは、タツキの部屋を出て行った。

タツキ「よし！準備出来たし飯食いに行くか！！」

タツキが朝食の用意されている部屋に行くとメイドの言っていた様に既に父様と母様がいた。

タツキ「父様・母様おはようございます。」

フィルリア「あら、タツキおはよう。さあ食べましょう。」

ギルス「ああおはよう。タツキ、食事が終わったら私の部屋まで来なさい。」

タツキは、なぜ父に呼ばれたのかわからず困惑しながらも答える。

タツキ「・・・？はい・・・」

食後

タツキ「父様いったい何の用なんだ？」

そういつている間にタツキは、父の部屋の前に着きドアをノックする。

コンコン

ギルス「タツキか？」

タツキ「はい」

ギルス「入りなさい。」

タツキは、父の言葉を聞きドアを開ける。

タツキ「失礼します。それで用とは、何ですか？」

ギルス「ああ、1日早いがお前にプレゼントを渡そうと思ってな。開けてみなさい。」

タツキは、戸惑いながら父が渡してきた包みを開ける。

タツキ「……………ありがとうございます父様。この刀は……………」

ギルス「ああ、最上大業物 黒紅刀 菊華 だ。大切にな。」

タツキ「このような刀をいただいてもいいのですか？」

ギルス「かまわないさ。何せお前へのプレゼントなのだからな。」

タツキは、ちちの言葉を聞き満面の笑みで礼を言う。

タツキ「ありがとうございます。」

こうしてタツキは、初めての刀を手に入れるのだった。

そしてまた時は、流れる

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0015ba/>

ONE PIECE 輪廻を廻った者

2012年1月1日01時45分発行